

発行所

一般社団法人 日本飛行連盟

〒105 東京都港区新橋1-18-1
0004 航空会館

TEL 03-6268-8755

FAX 03-3502-0680

e-mail/jfa1953@seagreen.ocn.ne.jp

HP/ jfa1953.org

新年ご挨拶

(一社)日本飛行連盟理事長 中澤 愛一郎

明けましておめでとうございます。

昨年は、4月に日本上空をホンダジェットが初飛行、11月には名古屋で三菱のMRJが初試験飛行するなど、日本航空界の新たな幕開けを感じさせました。また、今後低空域で活躍すると思われるドローンも運用ルールが決められ、私たちを取り巻く空の環境は刻々と変化しています。

しかしながら、東京・調布飛行場の事故により、ここに駐機するプライベート機がまだまだフライトを許されない問題は、引き続き私たちの課題です。

また、自然には勝てないことも痛感させられました。昨今の異常気象の影響か、大雨が鬼怒川流域に降り続き、大利根飛行場も被害を受けて9機の飛行機と1機のグライダーを水没させてしまいました。機体所有者の方には心からお詫び申し上げます。水の引いた直後の飛行場は一面ヘドロの海と化していましたが、今は草も生え、4月には元どおり綺麗な芝地大利根になります。

静岡の三保飛行場は常駐機が1機になってしまい、寂しいかぎりです。今年こそは常駐機を増やし、少しずつ整備を進めていきたいと考えています。

当連盟は、大利根飛行場と三保飛行場の運営を通じ、これからもジェネラルアビエーションを支え、赤十字飛行隊の啓蒙、援助を行ってまいります。また、日本飛行クラブ会員の皆さまとは普段お会いする機会がないので、交流を増やす機会を作りたいと思います。

今年もよろしく願いいたします。

TABLE OF CONTENTS

「赤十字飛行隊・活動報告」	2～3
「支隊紹介 富士川支隊」 阿部 正実	4～5
「特定操縦技能審査……これからの重要」 奥貫 博	6
「アメリカでの初飛行」 徳永 進	7
「JFAサロン」	8

年頭のごあいさつ

(一社)日本飛行連盟名誉会長・赤十字飛行隊隊長 高橋 淳

明けましておめでとうございます。本年も宜しくお願い致します。私も93才になりましたが、お陰様で相変わらずフライトをしております。しかし自分自身、年齢をとるごとに必要以上にチェック、リチェックを繰り返して安全運航に努めています。周りの皆さんにも心配や迷惑を掛けないようにするため、無理のない安全運航を心がけています。

さて、当社団の会員の皆さんはプロの方から自家用でレジャーフライトを楽しんでおられる方まで様々なライセンスがいらっしゃいます。各種ライセンスに共通すること、「大空は一度機嫌を悪くすると私達では太刀打ちが出来なくなる」「天候は豹変する」ことです。天候を侮り、つまらない事故を起こさないよう大空とは良い付き合いをして下さい。勿論飛行前点検もぬかりなく。私もまだまだフライト毎に己にダメ出しをします。それが己のみならず周りの安全の為に繋がります。納得のゆく満足な操縦は滅多にありませんし、皆さんと共に大空を楽しみたいので、これからも最善を尽くして元気にいきたいと思えます。

赤十字飛行隊・活動報告

人命救助表彰

名古屋支隊（ヘリコプター）東仁田支隊長に三河海上保安署から感謝状が贈られました。これは7月に起きた三河大島で海水浴中におぼれた5才の男児に対して的確な救助を行ったことによるものです。支隊長は「日赤の救命講習なども受けていたことで人様のお役に立てることができ、ほんとうに良かった」とのこと。こうして男児は無事に一命を取り留めました。

(詳しくは9月号をご参照ください)



中村泰則三河海上保安署長(右)より感謝状を贈られた東仁田支隊長

群馬支隊

9.5 (土) 平成27年度群馬県総合防災訓練

上空調査・無線通信訓練・画像伝送

R44 JA01CG 湯本正一、埴 光一、吉田 寛
(群馬県赤十字飛行隊支援奉仕団員)

R44 JA729A 中澤 敦

9.11 (金)

緊急出動 茨城県鬼怒川氾濫水害調査飛行

水害被害程度・範囲調査&情報提供

当日は大雨翌日の晴天で、午後0時20分赤城ヘリポートを離陸し、まっすぐ茨城県の常総市から結城市にかけての鬼怒川氾濫場所に向かいました。発災翌日ではあったもののまだ

かなり広範囲に浸水地域が確認され、レスキュー&捜索ヘリの飛行に影響しない範囲・高度にて災害状況を写真撮影し、データを日本赤十字社に提供しました。災害時に多数の航空機がそれぞれの任務で飛行する空域では、122.6MHz や123.45MHz はかなり混雑しており事実上交信するのは難しく、赤十字飛行隊専用の交信周波数確保の必要性をあらためて感じる出動でした。R44 JA729A 中澤 敦

9.12 (土)

群馬ヘリポート「空の日」フェスタ

ヘリコプター 2機展示、赤十字飛行隊パネル展示

年に一度行われる群馬ヘリポート主催のお祭りで、今年も晴天に恵まれ、群馬県警察航空隊、群馬県防災航空隊、群馬県ドクターヘリそして赤十字飛行隊群馬支隊の機体に参加し、デモフライトや機体の見学、警察音楽隊の演奏や白バイ、パトカー、消防車、救急車等の展示も行われ、各種模擬店やビンゴゲームなども行われました。午前9時までに赤十字飛行隊ヘリコプター2機を群馬ヘリポートに空輸し、展示の準備を始めました。機体の近くには高橋 淳赤十字飛行隊長の写真をはじめ、赤十字飛行隊の概要や歴史、実績等のパネルを展示し、また日赤群馬県支部職員やNEXUS(株)の職員の人々と一緒に献血や災害支援に関するPRを行いました。昨年に引き続き献血のイメージキャラクターである「献血ちゃん:ちっち」の着ぐるみを用意し、群馬県の公式キャラクターぐんまちゃんと一緒に来場者に献血のPRを行いました。

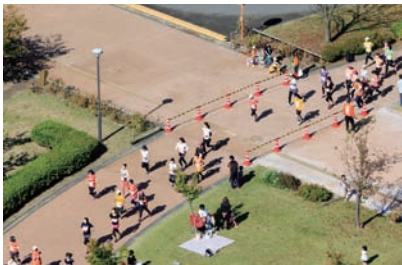
R44 JA729A R22 JA027G

10.4(日) 平成27年度日本赤十字社群馬県支部災害救護訓練

上空調査・無線通信訓練

R44 JA01CG 湯本正一、塙 光一、辻 佳英(群馬県赤十字飛行隊支援奉仕団員)

10.18(日) 第4回高崎美スタイルマラソン



このマラソンは子宮頸がん予防啓発のために高崎市陸上競技協

会などが主催し高崎市が後援して行われました。参加者800人はすべて女性で安全確保のため、上空からの情報収集を日赤群馬県支部を通じて依頼され、飛行しました。

当日の高崎市周辺は珍しいほどの快晴で、午前9時前に赤城ヘリポートを離陸し、高崎ヘリポートにて時間調整をしたのち高崎市観音山中腹にある大会本部上空からレースのコースに沿って観音山周辺を飛行し、レースの進行状況および参加選手の情報収集を行い大会本部へ状況報告を行いました。

R44 JA729A 中沢 敦、津田保志(群馬県赤十字飛行隊支援奉仕団員)

10.25(日)

平成27年度原町赤十字病院災害救護訓練

孤立地域の調査・無線通信訓練 R44 JA01CG 湯本正一、塙 光一、吉田 寛(群馬県赤十字飛行隊支援奉仕団員)

11.6-7(金・土)

第22回日本航空医療学会総会

飛行隊パネル展示

11.29(日) 平成27年度前橋市総合防災訓練(詳細は次号)

調布支隊

10.25(日)

平成27年度府中市総合防災訓練

日新小学校・飛行隊パネル展示

長崎支隊

11.29(日)

平成27年度日本赤十字社九州八県支部合同災害救護訓練(詳細は次号)

日本飛行連盟の飛行場

大利根飛行場

茨城県稲敷郡河内町・利根川河川敷
クラブハウスが綺麗に復活!最近キジや狸の親子も目に付きます。
野生の王国でもある大利根に是非おいで下さい。

三保飛行場

静岡県静岡市清水区・三保半島
これからの季節、飛行場西側の松林を吹き抜ける風のため
RW15のファイナルは慎重なコントロールが求められています。

特定操縦技能審査…これからが重要 奥 貫 博

平成26年4月から、全ての航空機の操縦者は、知識の更新と技量維持に努め、2年に一度の特定操縦技能審査を受けなければ、フライトすることが出来なくなりました。

以降、今年4月で2年を経過しますので、フライトを続けるためには、更新の審査を受けることが必要になります。

特定操縦技能審査は、基本的な操縦操作の能力、非常時の操作に関する知識、航空法規の改正点の知識等を確認するもので、口述および実技審査が行われます。実技審査は、離着陸、場周経路飛行、基本的な計器による飛行、レーダーベクターの模擬等、空港周辺での飛行の形で行われます。

この審査は、口述、実技とも、知識、技量の現状を確認し、十分でなかった部分は修正の助言により、安全性の向上を目指すためのものですから、余程のことが無ければ、不合格になる事はないのですが、それでも、以下の場合には、不合格の判定となります。

- 航空法、管制指示、飛行規程等に違反。
- 判定基準を繰り返し逸脱し、是正がない。
- 危険な操作又は危険な状況を回避しない。

要は、審査員が「この状況で飛行させることは危険」と判断した場合は、不合格と言うことでしょう。それでも飛びたい場合は、再訓練を実施して必要な知識と技量を身につけ、再審査を受けることが必要です。

このような特定操縦技能審査が施行され、飛行中のパイロットは、全員がその審査に合格しているわけなのですが、それで飛行安全の向上が得られているかと言えば、残念ながら、小型機の事故は、飛行機、ヘリコプター合せて、平成26年4月以降、現在迄に計16件も発生し、従来よりも多い状況です。

特定操縦技能審査により、全てのパイロットの安全意識が向上したはずなのに、この現状は、何とも困ったものです。フライトする全員の、安全意識の向上が必要です。

この2年目の審査は、事故の現状に目を向け、安全の向上を得るために実施すべきことを再確認する場にしなければなりません。



特定操縦技能審査を飛行安全に役立てましょう

知識も、技量も、それが実際のフライトの場で活かされなければ意味がありません。

最も基本的な、機長の出発前の確認事項にしても、必要なことは、航空法の記載事項を知っていることではなく、フライトの準備段階の情報収集と、確実な確認の実行です。

重量重心の管理はその最たるものでしょう。いつも乗る機体については、様々な搭乗状態での重量重心を計算して、確実に把握しておくことです。大人2人の重量は、ほぼ、ドラム缶1本分の燃料(200L)に相当しますから、その辺を頭に入れて、燃料と搭乗人数の関係を把握しておくことが必要です。

その他の事項も、可能な限り、事前に調べ、考え、準備しておかなければ、飛行の前の現場では、様々な実施すべきことがありますから、検討や確認の不足になりかねません。

特に、気象については、様々な情報と、飛行への影響について、十分な時間をかけて確認し、飛行前に考えておくことが必要です。

更に、いつもの機体に慣れていても、改めて、飛行規程を読み返してみることをお勧めします。特に、第3章「非常の場合の各種装置の操作その他の措置」等、普段使わない部分は、頭から抜けていることが多いので、理解して実行できるようにしておかなければ、いざという時に、役に立ちません。

2回目の特定操縦技能審査となる今回を機会に、気持ちを新たにして、知識の更新と技量維持に努め、周到な準備と判断で、飛行安全の確保に備えたいと思います。

アメリカでの初飛行

徳 永 進

私がアメリカでセスナをレンタルして初めて飛んだのは、カリフォルニアのロングビーチ空港でした。ここは日本の自家用免許をFAA免許に書き換えたFAAの事務所があるところで、そんな関係から初飛行はここにしようと決めていました。

安全のため地元の教習所の教官に同乗してもらいましたが、勉強のためATCは自分でやることにしました。ロングビーチ空港は民間航空会社の定期便が入っている中規模の飛行場です(それでも滑走路は5本ある)、クリアランス、グラウンド、そしてタワーの順にコンタクトしていきます。

ご存知のようにロングビーチ空港の北西には交通量の多いロサンゼルス空港があるため、この近辺の空域は細かく規制されています。

とはいってもロサンゼルスを上空から見たかったので、教官のアドバイスを貰ってまずLA河(と言っても用水路ですが)に沿ってダウンタウンに向かいます。この河上空は2000ft以下を維持するようになっておりVFR機がよく使うルートでもあるので、と

にかく対向機の監視に気を使いました。

空域の規制が多いロサンゼルス上空には南北に走るいくつかのVFR向けルートが設定されていますが、どれも高度8500ft以上になっています。これでは南北に飛ぶVFR機の利便性が悪いということで、ロサンゼルス空港上空に北向きは高度4500ft、南向きは3500ftの特別ルートが設定されています。

ロサンゼルス空港の4本の滑走路は全てほぼ東西なので、複数方位の滑走路がある羽田とは条件が違うにせよ、VFR機の利便性を常に考えているFAAの懐の深さを感じました。

ダウンタウンから西に進路を取り、南向きのこの特別ルートを飛んでロングビーチ空港に戻りました。

指示された滑走路は25Rでしたが、せっかく来たので主滑走路のRWY30をリクエストしたら、それならサウスカリフォルニア・アプローチにコンタクトしろ、との指示。さすがにアプローチの早口のATCに対応する勇気はなかったので、そのままRWY25Rに降りました。



上空の特別ルートから撮影したロサンゼルス空港



航空安全講習会へのご参加有り難うございました

講義内容

1. 「操縦士に求められる能力、実地試験で見ている事項」
国土交通省航空局運航安全課 航空従事者試験官 後藤和志 講師
2. 「自家用操縦士として忘れてはいけない事！／何故駄目だか考えよう！（航空工学編）」
航空安全講習会認定講師 山本俊平

航空技量維持連絡会では当社団主催による講習会を2回開催致しました。2回とも講師は後藤、山本両氏が担当。10月17日(土)千葉県・我孫子市ホテルマークワンアビコには32名、11月14日(土)東京・調布では58名が受講され、皆様から様々なご意見を頂きました。

・ATC、CRM、重量計算などの重要性を再認識できた。・機体性能を超えない運用、基本的な事を忘れないよう刺激を受けた。・意外と知らない事があって勉強になりました。試験官の講義はATCについて心掛けるべきことがユーモラスなエピソードを交えて凄く良かった。・航空工学は自分の盲点を突いていて大変勉強になりました。また「過去の事故やインシデントの対策なども講習会で無くても良いので作成してもらえると尚良い。」といった意見もあり、皆さんご自分なりに安全確保の策を考えていることが分かりました。頂いたご意見を元に引き続き講習会を行っていきます。



満室、盛況の東京都調布飛行場ターミナル会議室

日本飛行連盟忘年会 12月12日(土) 13:00-15:00 (公社)日本外国特派員協会

皆様、年末のお忙しい中、忘年会へのご出席ありがとうございました。丸の内を眼下に望む日本外国特派員協会のクラシックなレストランには、中澤理事長、高橋隊長はじめ14名が出席。話をふれば昔語りや新年の抱負がサッと出てくる反射神経は皆さん健在！今年も宜しくお願い致します。

事務局・夏目、加藤



●年間スケジュール●

月 日	曜日	内 容	会 場
2月中		海上自衛隊下総航空基地周辺飛行安全会同	下総基地
2月6日	土	防災ボランティア・4奉仕団合同研修会	日本赤十字社群馬県支部
2月20日	土	赤十字飛行隊全国支隊長研修	日本赤十字社本社